

「SDGs経営／ESG投資研究会報告書」概要

- 第一章では、「SDGs—価値の源泉」と題し、SDGsが企業や投資家等のステークホルダーに対してもつ意味を整理。第二章では、「SDGs経営の実践」と題し、SDGs経営実践のために企業や投資家等が意識すべき点に関する議論を整理（「SDGs経営ガイド」はこの二章をもとに作成。）。
- 「第三章 政策提言」においては、以下のとおり、議論の中で見えた課題を整理し、対応の方向性を提示。

研究会で見えた課題	対応の方向性
<p>1. <u>国際的なメッセージの発信</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本企業の先進的な「SDGs経営」の発信 ■ 「SDGs経営」によるESG投資の呼び込み ■ “DFFT（Data Free Flow with Trust）” 	<ul style="list-style-type: none"> □ 『SDGs経営ガイド』の策定と発信 □ G20等の国際会合や多様なイベントでの発信 □ 国内外の関係機関と連携した発信 □ DFFT（Data Free Flow with Trust）の発信
<p>2. <u>長期視点の企業経営の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大企業とベンチャー・アカデミアの連携によるイノベーションの「協創」 ■ 無形資産投資（人材等）の重点化 ■ 長期的な研究開発投資の推進 ■ 情報開示の改善（SDGs・長期ビジョン等） 	<ul style="list-style-type: none"> □ イノベーション経営の推進／産学官連携の推進／長期のリスクマネー供給の拡大 □ 人材投資、健康経営・ダイバーシティ経営の推進 □ 「非連続」を生む長期的な研究開発投資の推進 □ 戦略的な情報開示（SDGs経営と長期ビジョン／「<u>価値協創ガイダンス</u>」の更なる普及拡大）
<p>3. <u>投資家による長期投資の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 投資家による長期投資へのコミットメント ■ 長期投資とリターンの相関 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「<u>アクティブファンドマネージャー宣言</u>」の浸透・拡大 □ ESG投資のパフォーマンスの検証・整理等 □ 長期投資を促す<u>市場構造への見直し</u>
<p>4. <u>SDGsを通じた新市場の開拓</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 社会課題解決を切り口に、これまで見落とされていた市場を開拓 	<ul style="list-style-type: none"> □ SDGsを通じた新市場開拓へのサポートの可能性を検討 □ <u>アジア・アフリカ市場の開拓推進施策とも連携</u>
<p>5. <u>国際的なルールメイキング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SFやSDGs関連投資に係る国際動向の把握 ■ <u>価値協創ガイダンスの国際展開</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 国際的な投資関連動向の調査・分析とインプット □ 「<u>価値協創ガイダンス</u>」フレームワークの国際展開
<p>6. <u>科学的・論理的な評価の浸透</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 主観的な議論に流されない科学的・論理的な評価の重要性 	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>投資家・評価機関の手法の分析・整理</u> □ <u>国際標準づくりに向けた対応</u> 等

(参考)「SDGs経営ガイド」概要

- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の6回にわたる議論を踏まえて作成し、2019年5月（P）に公表。
- 大企業・ベンチャー企業の経営者、機関投資家、アカデミア、国際機関から出された意見を整理し、企業が本業を通じてSDGsに取り組む「**SDGs経営**」の**エッセンス**や**投資家がこれを評価する視座**等をまとめた。
- 本ガイドにより、①**世界中の企業が新たに／さらに「SDGs経営」に取り組む際の羅針盤を提示**するとともに、**投資家が「SDGs経営」を評価する際の視座を提供**すること、②**日本企業の「SDGs経営」の優れた取組を世界にPR**することで、海外から日本企業への投資を促すこと、を主な狙いとする。
- 今後、**G20やTICAD等の場も活用して、広く国内外に発信し、普及・浸透を図る**（英語版も作成）。



<SDGs経営ガイドのコンテンツ>

Part1. SDGs—価値の源泉

- ① 企業にとってのSDGs
- ② 投資家にとってのSDGs
-SDGs経営とESG投資-
- ③ マルチステークホルダーとの「懸け橋」

Part2. SDGs経営の実践

- ① 社会課題解決と経済合理性
- ② 重要課題（マテリアリティ）の特定
- ③ イノベーションの創発
- ④ 「科学的・論理的」な検証・評価
- ⑤ 長期視点を担保する経営システム
- ⑥ 「価値創造ストーリー」としての発信

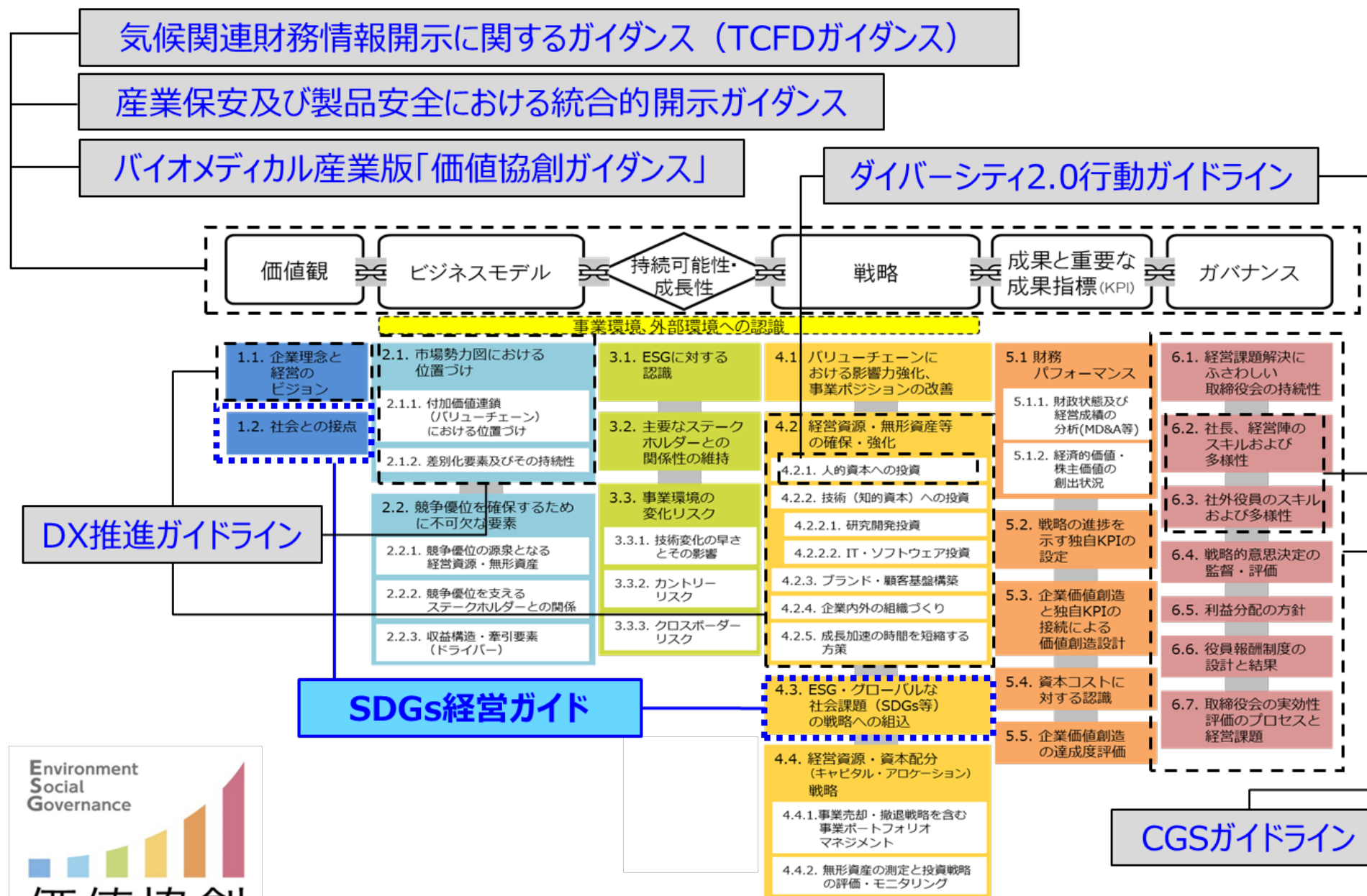
本ガイドの主なメッセージ

- 「SDGsネイティブ」であるミレニアル世代のプレゼンスが投資家・従業員・消費者として向上する中、**SDGs経営は投資・人材・顧客獲得の重要なカギ**
- SDGs経営で、**社会課題解決の中に経済合理性を見出すことで、取り残されてきた市場を新たに獲得**できる
- **大企業とベンチャー・アカデミアの連携や長期の研究開発投資を通じて、社会課題を解決するイノベーションを「協創」**できる
- SDGs経営を企業の「**価値創造ストーリー**」に位置づけた上で、「**選ばれたい人**」に**的確に発信**することが重要
- **科学的・論理的な検証と評価を徹底**するとともに、**国内外ステークホルダーにも浸透**させるよう働きかけていくべき
- 「三方よし」の精神等もあり、「**SDGs経営**」を**当然のもの**と考える日本企業は多い

(参考)「価値協創ガイダンス」フレームワークの全体像： 価値協創ガイダンスの理念を共有した「共通言語」

- 価値協創ガイダンスの理念を共有した、企業と投資家の多様な「共通言語」を活用することで、企業は目的に合わせた情報開示を行い、より効率的に投資を呼び込むことが可能。

<価値協創ガイダンスフレームワーク>



価値協創ガイダンスポータルサイト
https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyoukaikai/ESGguidance.html